

## 121 ファリサイ派の人々と律法の専門家とを非難、対決する

ルカによる福音書 11 : 37~54、マタイ 23 : 1~36、マルコ 12 : 38~40、ルカ 20 : 45~47

37 イエスはこのように話しておられたとき、ファリサイ派の人から食事（ギリシア語で「アリストン」：ブランチ的な朝食）の招待を受けたので、その家に入って食事の席（→シンポジウム）に着かれた。  
→ギリシア語「スポンシオン」（スポン：一緒に、シオン：飲む）→シンポジウム  
シンポジウム（公開討論会）とは、（古代ギリシアの饗宴の意から）特定のテーマに関して複数の講演者が意見を述べ、質疑応答や討論を参会者と共に行う公開の討論会を言う。

38 ところがその人は、イエスが食事の前にまず身を清められなかった（→文字どおりには、バプテスマー儀式的な洗いをされなかった）のを見て、不審に思った（聖書協会共同訳、回復訳、新改訳：驚いた）。  
→ファリサイ派（口伝律法）では、人々が食べたり触れたりすることによって汚れ、神を礼拝するのにふさわしくなくなると厳しく教え、手を洗うことに固執した。このことから、食前には念入りに手と食器を洗った（もし、その場に手等を洗う水がなければ数km（3km）以上、水を探し歩くことも厭わなかった）。

39 主は言われた。

「**実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにしますが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。**40 **愚かな者たち、外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。**

41 **ただ、器の中にある物を人に施せ。そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。**

→イエスは外側のみ清くする律法に従うよりも、内側がどのような人間であるかが重要だと説いた。

（回復訳解説）「内側」は、杯に入っているものや大皿の上に置かれたものを言っています。これらは、ファリサイ人の心の中にあるものを象徴しています。彼らの心の内側には貪（むさぼ）りがありました。彼らの内側は、略奪と悪（→強欲と悪意）で満ちていました。ですから、主は彼らに、彼らの心の中で貪っている（→際限なく欲しがる）ものを施しとして与えるように命じられました。それは、すべてのものが、彼らにとって清くなるためでした。

→ファリサイ派 { ①シャマイ学派（多数派）まず外側（外面）が大事で、内側は二の次  
②ヒレル学派（少数派）まず内側（内面）を清める、次に外側。→イエスの解釈

### 【参考】三毒：貪瞋痴（とんじんち）

仏教用語。人間のもつ根元的な3つの悪徳のこと。自分の好むものをむさぼり求める①貪欲、自分の嫌いなものを憎み嫌悪する②瞋恚（しんに）、ものごとくに的確な判断が下せず迷い惑う③愚痴の3つで、人を毒することから「三毒」、「三不善根」などとも呼ばれる。

42 **それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸①**（→聖書協会共同訳、回復訳：災い→②③）**だ。**（モーセの律法に記されていない）**薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は（正確に計算し）献げるが、正義（or 裁き）の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。**

**もとより**（→元より・固より・素より：いうまでもなく。もちろん。）、**十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが**（→リビング・バイブル：もちろん、十分の一献金は大いにけっこうです。しかし、もっと大切なことをなおざりにしては意味がありません。）。

→ファリサイ派の人々は、重要な事（→隣人愛、神への愛）を軽視し、どちらでもよいこと（→外見、見かけ）を重視していた。

→薄荷（はっか）：パレスチナで広く自生する宿根草。春から秋まで開花する。葉は茶、調味料、香料、薬用に広く使用される。この種はパレスチナで広く自生している。

→芸香（うんこう）＝コヘンルーダ：ミカン科の多年草（宿根草）、黄色の花を咲かす。種子や葉は香辛料、薬用として利用される。ジンチョウゲ（沈丁花）の別称。

43 あなたたちファリサイ派の人々は不幸②だ。(自らの栄光を求めて、) 会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好むからだ。

→ファリサイ派の人々はしばしば聖書について教えたので、会堂の前列に座った。人々はファリサイ派を尊敬し、公の場で敬意を示した。

44 あなたたちは不幸③だ。人目につかない墓のようなものである。その上を歩く人は気づかない。」

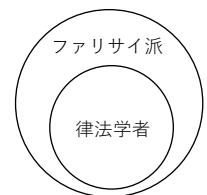
→墓は誤って触れると汚れるとされ、触れた場合は、清めの儀式を行わなければならなかった。そこで誤って墓に触れることのないように漆喰で白く塗られていた。しかも、年に一回、春には、白に保つために漆喰で、頻繁に塗り直された。

→民数記 19 : 16~17

野外で剣で殺された者や死体、人骨や墓に触れた者はすべて、七日の間汚れる。それらの汚れたもののためには、罪の清めのために焼いた雌牛の灰の一部を取って容器に入れ、それに新鮮な水を加える。

45 そこで、(ファリサイ派に属している、) 律法の専門家の一人が、

「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱する (or 憤慨させる) ことになります」と (恫喝して) 言った。



46 イエスは言われた。「あなたたち律法 (→創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記) の専門家も不幸① (→聖書協会共同訳、回復訳：災い→②③) だ。人には背負いきれない重荷 (→律法に従うために、ファリサイ派や律法学者が教えている規律：口伝律法) を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れ (→医者であったルカが用いた医学用語で、体の痛い部分や柔らかい部分にそっと触れること：触診) ようとしないからだ。」

→律法学者たちは律法を主張することを好むが、律法を守ろうと苦勞している人々を助けようとしないとイエスは指摘している。

47 あなたたちは不幸②だ。自分の先祖が殺した預言者たちの墓 (or 記念碑) を建てているからだ。

→(リビング・バイブル) あなたがたは、いまわしい (→忌まわしい：関わりたくないと思わせるほど、非常に不愉快な) 者です。昔、預言者たちを殺した先祖とそっくりです。

→ファリサイ派の人々は、あたかも預言者を敬っているかのように振舞った。彼らは、預言者たちの墓を建てたが、これは偽善的行為であった。なぜなら、彼らは、内面では先祖たちと同じ道を歩んでいるからである。

48 こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。

→(リビング・バイブル) 人殺しと少しも変わりません。先祖が殺した預言者たちの記念碑を(偽善的に) 建て、『先祖は正しかった』と認めているのですから。だから、あなたがたも、きっと同じことをしたでしょう。

49 だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』

→マタイによる福音書 23 : 34

だから、わたしは預言者、知者、学者をあなたたちに遣わすが、あなたたちはその中のある者を殺し、十字架につけ、ある者を会堂で鞭打ち、町から町へと追い回して迫害する。

神はイエス以前にも使者たちを遣わしたが、人々は彼らに背を向け、殺しさえもした。人々は神が語っていることを聴くことができなかつた。

50 こうして、天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、今の時代の者たちが責任を問われることになる。

51 それは、**アベル** (→旧約聖書に登場する最初の殉教者、創世記4:8) の血から、祭壇と聖所の間で殺された**ゼカルヤ** (→旧約聖書に登場する最後の殉教者、歴代誌下一ヘブライ語聖書の最後の書一24:21) の血にまで及ぶ。そうだ。言うておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。

52 あなたたち律法の専門家は**不幸**③だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきた (or 阻止してきた、禁じてきた) からだ。」

→アベルの創世記からゼカルヤの歴代誌までの旧約聖書 39 卷

→ゼカルヤは、ヨヤダの子？、それともバラキアの子？

(歴代誌下 24 : 20) 祭司ヨヤダの子ゼカルヤ (→[NIV] Zechariah son of Jehoiada / [NKJV] Zechariah the son of Jehoiada / [新改訳] エホヤダの子ゼカリヤ) は神の霊に包まれた。彼は民を見下ろして立ち、こう言った。「神はこう言われる。『なぜ、あなたがたは主の戒めを破るのか。あなたがたは栄えない。あなたがたが主を捨てたから、主もあなたがたを捨てる。』」

(マタイによる福音書 23 : 35) こうして、正しい人アベルの血から、あなたがたが聖所と祭壇の間で殺した**バラキア** (→ヨヤダ?) の子**ゼカルヤ** (→[NIV] Zechariah son of Berechiah / [NKJV] Zechariah, son of Berechiah / [新改訳] バラキヤの子ザカリヤ) の血に至るまで、地上に流された正しい人の血がことごとく、あなたがたに降りかかってくる。

③ヨヤダの子ゼカルヤ及びバラキアの子ゼカルヤという表記は、共に聖書に一か所しか登場しない。

### 【参考】アベル

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 (アベル)13個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: アベル]
K 創世記	4:2 彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。	
K 創世記	4:4 アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、	
K 創世記	4:8 カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。	
K 創世記	4:9 主はカインに言われた。「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」カインは答えた。「知りません。わたしは弟の番人でしょうが。」	
K 創世記	4:25 再び、アダムは妻を知った。彼女は男の子を産み、セトと名付けた。カインがアベルを殺したので、神が彼に代わる子を授け(シヤト)られたからである。	
S マタイによる福音書	23:35 こうして、正しい人アベルの血から、あなたたちが聖所と祭壇の間で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、地上に流された正しい人の血はすべて、あなたたちにふりかかってくる。	
S ルカによる福音書	11:51 それは、アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。そうだ。言うておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。	
S ヘブライ人への手紙	11:4 信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました。神が彼の献げ物を認められたからです。アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています。	
S ヘブライ人への手紙	12:24 新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。	

53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者やファリサイ派の人々は激しい敵意を抱き、いろいろの問題でイエスに質問を浴びせ始め、54 何か言葉じりをとらえよう (→狩猟の時のように罠をかけよう) とねらっていた。

→この食事会 (シンポジウム) は、イエスの論敵に怒りの火を点ける結果に終わった。

【参考】ローマ人の食事の席(寝転んでの食事)



ローマの富裕層たちは、邸宅の中にある「トリクリニウム」(ギリシア語で「3台の臥台」という意味)と呼ばれる部屋で、「レクトゥス・トリクリナリス」と呼ばれる食事専用の臥台(寝椅子)に寝そべて食事(晩餐)会を行った。元は小アジアの習慣で、埋葬時の死者を表し、この習慣がギリシアやエトルニア(BC8世紀からBC1世紀頃にイタリア半島中部にあった都市国家)に伝わり、ローマへと広がった。

寝た姿勢で食事をするのは不便であったが、貴人のステイタスとして採用された。

寝椅子「レクトゥス・トリクリナリス」は木材、青銅、象牙、銀などで作られ、テーブルに向かって少し上向きの傾斜があり、その上にクッションやクロスを敷いて使用した。

食事の作法としては、①左脇を下にして寝そべり、②左の肘で体を支え、③右手でテーブルに置かれた食べ物を素手づかみで取って食べた(ナイフやスプーンを使って食べることもあったし、左手を使うこともあった)。

1台のレクトゥス・トリクリナリスは3人用で、3台のレクトゥス・トリクリナリスがテーブルをコの字形に囲むように置かれた。通常9人ないしは10人程度で行われるのが一般的だったが、その他に特別来賓用として、主にVIPをもてなす少数人数用の小さなトリクリニウムを備えた邸宅もあった。

また、座席には上席や末席があって、社会的地位によってその位置が厳格に決められていた。

列席者の主賓は馬蹄型上辺にあたる臥台の一番左側(下図①)に座った(①の位置は「執政官の座」と呼ばれ、日本でいうところの上座である)。以下、上辺の左から右(②から③)、左辺の上から下(④から⑥)、右辺の上から下(⑦から⑨)、という順番になっていた。

招いた邸宅の主人は左辺の上部で、主賓と会話できる位置をとることが多かった。



マナーとして、出席者は公服である「トガ」という白く細い毛糸(ウール)で織られた服で正装(男女に大きな違いはない)をしなければならなかった。ローマの元老院の議員たちが着る布を巻き付けたような服で、布幅は、身長3倍もあった。通常、ローマ人は「トゥニカ(チュニカ)」と呼ばれる短衣を着ており、トガはそのトゥニカ(チュニカ)の上に体に巻き付け羽織った(外国人・奴隷・解放奴隷は身に付けることが許されなかった)。トガは高価だったため、持っていない者は招待主から借りて着用した。トガに代わるものとして、食事用の使い捨てのいろんな色で出来た服「シュンテシス」を着ることもあった。



これに比して、庶民の男性は、正装として腿丈のトゥニカの上から無地無染色の自然のままの羊毛の色(濃いベージュ)のトガを着た。トガを着つけるのは非常に煩わしかったので、BC1世紀頃から日常ではトゥニカを二枚重ね着したり、ギリシア風外套を着るのが普通になった。トゥニカは古代ギリシアのキトンから発展したもので、ウールでできた大判のTシャツのような服で、五分袖から七分袖程度の袖が付き、膝下丈(労働時にはベルトでたくしあげて膝上丈)で着た。袖や裾が長いものは軟弱だとされ嫌われた。

トガが現在のスーツなら、トゥニカはシャツとジーンズのようなもので、貧しい市民はトゥニカだけを衣類とした。

なお、料理は、前菜、メイン料理、デザートというコース料理がふるまわれた。世界中から珍味などが集められ、満腹になると鳥の羽で喉を刺激して、食べた物をすべて吐き出して、また、次の料理を口にする者もいた。メロン、牡蠣などはローマ人が食べ始めたと言われている。

ローマ帝国の哲学者セネカは、「ローマ人は食べるために吐き、吐くために食べる」と評した。

※参考：最新世界史図説タペストリー(帝国書院)／日伊相互文化普及協会  
古代ローマライブラリー／ウィキペディア「トガ」

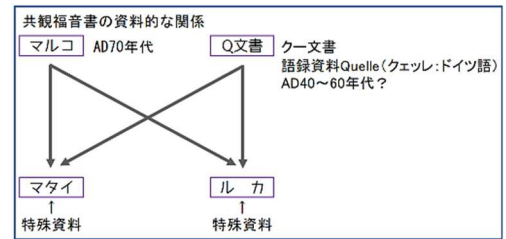
### 【参考】聖書の成立年代と記者

テモテへの手紙二 3：16 には、「聖書はすべて神の霊 (God-breathed/inspiration of God) の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」とあります。聖書は 40 人以上のそれぞれ異なった背景を持つ人たちによって、1600 年の長きに渡って書き続けられていながら、不思議な統一性と調和があります。以下、聖書の成立年代 (諸説あります) と記者を記します。

- ▶創世記 (ゲネシス)、出エジプト記 (エクソドス)、レビ記、民数記：BC1440 頃～1400 頃、申命記 (第 2 の律法)：BC1410 頃＝モーセ五書→預言者 (元羊飼い) モーセ
- ▶ヨシュア記：BC1400 頃～1370 頃→指導者 (ヌンの子) ヨシュア
- ▶士師記 BC1045 頃～1000 頃、ルツ記：1011 頃～931 頃、サムエル記上、サムエル記下：960 頃  
→預言者サムエル
- ▶列王記上、列王記下：BC560 頃～540 頃→預言者エレミヤ
- ▶歴代誌上、歴代誌下：BC450 頃～425 頃、エズラ記：460 頃～440 頃、ネヘミヤ記※1：445 頃～420 頃  
※1：元来は、エズラ記と併せ一巻をなしていた。題名は、バビロン捕囚からの解放後、エルサレムに派遣されたペルシャの総督 (もしくは宦官) で、エルサレムの城壁を再建し、民族の復興に尽力したとされる人物ネヘミヤに由来している。「エズラ記」での 6 章と 7 章の間に当る時代に相当すると考えられている。  
→律法学者、祭司、書記官の預言者エズラ
- ▶エステル記：BC460～350→モルデカイ (エステル記の重要な登場人物)、またはエズラかネヘミヤ (ペルシア文化に詳しくあった可能性が高い)
- ▶ヨブ記：モーセが著者の場合は BC1440 頃、ソロモンが著者の場合は BC950 頃
- ▶詩編：1000 年もの年月をかけて書かれ、BC537 頃に編集された。→作者等不詳
- ▶箴言：BC900 頃、コレヘトの言葉：935 頃、雅歌 (ソロモンの雅歌)：965 頃  
→ダビデ王の子でイスラエル統一王国 (イスラエル王国) の第 3 代の王ソロモン
- ▶イザヤ書：BC701 頃～681 頃→預言者イザヤ
- ▶エレミヤ書：BC630 頃～580 頃、哀歌：586 頃～575 頃→預言者エレミヤ
- ▶エゼキエル書：BC593 頃～565 頃→預言者エゼキエル
- ▶ダニエル書：BC540 頃～530 頃→預言者ダニエル→
- ▶ホセア書：BC755 頃～725 頃→預言者ホセア
- ▶ヨエル書：BC835 頃～800 頃→預言者ヨエル
- ▶アモス書：BC760 頃～753 頃→預言者アモス
- ▶オバデヤ書：BC848 頃～840 頃→預言者オバデヤ
- ▶ヨナ書：BC793 頃～758 頃→預言者ヨナ
- ▶ミカ書：BC735 頃～700 頃→預言者ミカ
- ▶ナホム書：BC663 頃～612 頃→預言者ナホム
- ▶ハバクク書：BC610 頃～605 頃→預言者ハバクク
- ▶ゼファニア書：BC735 頃～725 頃→預言者ゼファニア
- ▶ハガイ書：BC520 頃 →預言者ハガイ
- ▶ゼカリヤ書：BC520 頃～470 頃→預言者ゼカリヤ

ダニエル書 (黙示文学) はアンティオコス 4 世エピファネスの迫害期、マカバイ戦争初期に成立し、敬虔派の信仰は後期ユダヤ教の主流を形成していったとされており、舞台設定は BC6 世紀にダニエルがバビロンで書いたとされているが、成立は BC2 世紀 (BC167～164) にダニエルの名を借りて書かれたとする説が有力である。

- ▶ マラキ書：BC440頃～400頃→預言者マラキ
- ↑ ↓ 中間時代 intertestamental period: 400年の沈黙の期間
- ▶ マタイによる福音書：AD80頃～90頃
- 元徴税人の使徒マタイ → for ユダヤ人、ヘブライ語堪能者
- ▶ マルコによる福音書：AD70頃
- 使徒マルコ → for 外国人（特にローマ人）



- ▶ ルカによる福音書：AD80頃～90頃→元医者 of 使徒ルカ → for 異邦人
- ▶ ヨハネによる福音書：AD90頃～110頃→ゼベダイの息子で元漁師である使徒ヨハネ
- ▶ 使徒言行録：AD85頃→元医者 of 使徒ルカ
- ▶ ローマの信徒への手紙：AD56頃～58頃、コリントの信徒への手紙一、コリントの信徒への手紙二：55頃、ガラテヤの信徒への手紙：48頃～55頃、エフェソの信徒への手紙：60頃～63頃、フィリピの信徒への手紙：61頃、コロサイの信徒への手紙：58頃～62頃、テサロニケ信徒への手紙一、テサロニケ信徒への手紙二：50頃、テモテへの手紙一、テモテへの手紙二：62頃～66頃、テトスへの手紙：66頃、フィレモンへの手紙：60頃→元テント職人である使徒パウロ
- ▶ ヘブライ人への手紙：AD65頃→（元テント職人）使徒パウロ／パウロの協力者シラス、ルカ他？
- ▶ ヤコブの手紙：AD45頃→イエス・キリストの兄弟ヤコブ（義人ヤコブ）
- ▶ ペトロの手紙一、ペトロの手紙二：AD60頃～65頃→使徒ペトロ（シモン・ペトロ、ペテロ、ケファ）
- ▶ ヨハネの手紙一、ヨハネの手紙二、ヨハネの手紙三：AD85頃～95頃→使徒ヨハネ
- ▶ ユダの手紙：AD60頃～80頃→イエスの兄弟（ヤコブ、ヨセフ、シモン〈シメオン〉、ユダ、妹2人）のユダ
- ▶ ヨハネの黙示録：AD95頃→使徒ヨハネ

④成立年代には諸説あります。

【参考】 霊の導き

タイトル(書名)	章・節:聖句	【検索対象総数：4ヶ所 / 聖書聖句等の総数 33250 (霊の導き)5個】	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) 【検索語彙：霊の導き】
S ガラテヤの信徒への手紙	5:16	わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。	
S ガラテヤの信徒への手紙	5:25	わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。	
S テモテへの手紙Ⅱ	3:16	聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。	
S ユダの手紙	1:20	しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。	

※私たちは聖霊の導きに従って歩み、聖霊の導きの下に祈る必要がある。

私たちの宣言 Mission2021

日本人の御利益（神仏が衆生に与える利益、霊験）を求める信仰心（家内安全、商売繁盛、交通安全、夫婦円満等）には、創造主（天の父）である神との対話、関りといった概念は一切存在しない。現在の日本において宣教（伝道）を考える時、従来の延長線上で行っても結果は全くと言って期待はできない。今迄、自分たちが行ってきた旧来のやり方やメッセージをもう一度吟味し、見直す時が来ている。神様の教えを複雑にし、方向性を見失った、熱心さに欠けた宣教（伝道）の奉仕だけでは効果は薄く、結果にもつながって行かないということを今一度認識し、宣教（伝道）が難しいと言われる日本において、私たちは今の時世に適した宣教（伝道）活動をいろいろと模索、検証し、行っていかなければならない。そして今、私たちに一番大切に求められていることは、今一度初心に帰ること、そして日々の継続した心から行う信仰生活と教会生活の二面であるということも決して忘れてはいけない。